



吉茂初後府の者熱  
 倍揚撫日喘と云々  
 周下留清法務五滞  
 身昔茶少契陳為雲物  
 毛可尔否の故に中又の  
 伊之律為と激之入り物  
 後十日高浅く可也と撰  
 揚をきりて中旬  
 以て其の功を云ふ  
 家知也  
 丹心七八の事あり川宮  
 後海川平清海に於て  
 西向の事議に出るは為  
 石并拜獻あるは原野  
 月取深より山田松  
 方より金と管と有るは  
 而其事取るは必也

方と又今之筈と有るは  
之を幸に取らざるは  
之也之を存に持て子川  
ト西のト一語話有  
之は身は縁中一徳  
然にたゞ是は陳

子曰也為何の何は仁事  
サナリ者有は内務は外  
ノ者たるは斯くも現状  
如何

西曰誠の能く生むるは  
若くサナリ人言ひ自ラモ  
おれ所ナリ彼ノ如キハ元大輔  
タリシ可縁ミアレハ司法  
何ナラン

子曰今日ノ事政策ノ得  
トスルカ  
西曰明言シカタシ  
子曰君カ大先ハ死ニ就  
責メテハ徳役位ノ奮  
何ナラン

西曰諾ミ位ノ奮志ヲ  
シ且ク日ノ君ハ込耳  
ナクキタリト常ニ修  
キレカ何ソ針テシハ  
活潑ノ氣象アラントハ

ナクキタリト事ニシテ修ヨリモ少  
キレカ何ソ計テシテ日新シキ

活潑ノ氣象アラントハ

可笑テ曰人乃血脈ノ運レ

スル限リハ固有ノ元氣ハ失

シヤンモノナリ又曰生ノ道ハ何ソ

怪ムコトラン 狂ハ君ハ今

日何ハ為ル所アルカ一者ニア

ルモヤ我徳比ナリ他人ナリ

之ヲ觀シハ常ト何ソ殊異ナ

ランヤ 君宜シク省慮セヨ

西日諾君ハ言ノ如ク今日ハ奮

登スヘキ時塔ナリト思フ

其白者キ徳役ニ就ケ日ト

言ヒシハ君ト山物ト謀リナラハ

其勢カテ以テ廟也モ効カス

ハキニツキ之ヲ以テ社儀ニ行

ハト云フニハアラス真ニ天下ノ

大計即万世ノ安寧ヲ圖

レト云フニアリ

西日諾君余ノ家ニ来レ語ルニ

早曰遠方ナシハ行クニ困ル併ニ

所由ニテモ行ケル所ハ

西日石込日長田所ニ復任セ

ントス魯ハ近日復轉セト欲

シタレト 伊豫ノ海ニ向ヒ

轉スル時ハ伊豫ノ海ニ向ヒ

成念能

轉レん時ハ伊豫成忠  
ナ如何ト願フ故ニ伊豫  
系上レリ教サレモ經レハ  
甲何ニ移任スハレ甚ハ近  
ナルハ幸ニトナレル

子日諾

西日余家ニ七兄ト告知セシ能  
公ナル者アリヨリ君ニ百字退受  
ケタリ故ニ君カ家ヲ訪ハンコト  
常ニ余告ケタリ能レ氏君  
皆地ヲ知ラス為レ今日モテ無  
青セリ余モ必ス君ヲ訪シ君  
必ストナレ

子川日欠多謝部ニ行クハ能ハ  
好シカラス既ニ大兄カ欠多謝ナリ  
此時余ヲ招キタルモセヤク伴アル  
乃ハウ初モ既ニ番方下ナリ  
タレ以上ハ用事ナシト云ヒテ  
訪ハサリシ後甲能免後而  
寄セシ丁アリ且リ君モ地下モ  
地本不レ能スルハ國  
家ニ寄ルニ及サルハカラス今  
日マラ、如クボンヤリテハ國  
ルト云々

西日奮リテヤムベシ

是ヲ稍總密達ニテト

是より稍總密讀之と  
ふれ、澄之石井、多量、不寄、酒  
層、敏、海、ヲ、始、ム、ル、テ、以、テ、五、  
階、神、移、リ、タ、リ、ト  
右、外、世、々、々、ハ、海、流、之、緒  
可、妙、モ、シ、モ、指、之、ル、ハ、天、五、精  
之、體、ヲ、以、テ、有、福、之、証、也  
之、要、歟、之、ま、ぬ、所、也、

南、江、河、北、ノ、子、川、ニ、從、  
テ、西、下、リ、叩、ク、答、有、  
之、ハ、右、極、ノ、廣、文、強、中、  
世、也、及、シ、澄、之、志、也、  
後、多、所、ノ、下、也、  
多、所、ノ、下、也、

八百七  
新

大隈公閣下  
侍史

大隈公閣下

法親啓



絨

春木藏彰